

縣陵

KENRYO

Matsumoto Agatagaoka Senior High School

134



- 02 平成 30 年度役員あいさつ
- 04 PTA総会~どうせやるなら楽しいPTA活動を!~
1 年「大学入試、探究学習、研修旅行について」
- 05 2 年「台湾修学旅行にむけての準備について」
3 年「親子でワクワクする魔法の質問」
- 06 平成 30 年度 PTA 年間スケジュール
- 07 専門委員会より
- 08 学年づくり
- 10 【特集1】 探究科、始動
- 12 【特集2】 守ろう伝統!硬派縣陵応援団!
- 13 活躍する縣陵生
- 14 ようこそ縣陵へ!
- 16 縣陵祭 Snap・縣陵祭表彰・編集雜記



<http://www.nagano-c.ed.jp/agata>
<http://www.nagano-c.ed.jp/agata/keitaiban.html>

変革の時を迎えて

PTA 会長 竹内 公人



本年度PTA会長を務めさせて頂くことになりました竹内と申します。

役員の皆様のご協力を頂きながら精一杯取組みますので、会員の皆様方のご支援宜しくお願い申し上げます。

ドッグイヤーという言葉が使われなくなって久しいかと思えます。

この「革新のスピード」を表す言葉自体が使われなくなった事に象徴されるように、昨今の社会の変革のスピードは増すばかりで、本校でも昨年の「史上初の修学旅行実施」「電子黒板・書画カメラの設置」などの革新的な動きに続き、本年度は「探究科」が新設されました。

まさに変革の局面を迎えている今、PTAとしても時代の変化に対して適切に対応する必要があるかと思えます。

そんな中、昨年度は1・2学年教室へのエアコン設置の議論が始まり、今年度はその流れを引き継ぎ、データ測定、他校

からの情報収集等、研究を進めていきたいと考えています。昨年に引き続きアンケート等も実施したいと思いますので、その節はご協力お願い申し上げます。

先般PTA総会でご承認頂きました本年度PTA事業の中で、会員の皆様に広くご参加頂きたいものは次の三つかと思えます。

地区PTA（地域特有の事情がある中、同じ悩みを共有・解消出来うと思っています）

強歩大会協力（コースでの見守り・果物や飲料の配布を通じ、真摯に頑張る縣陵生と接する事が出来ます）

PTA研修旅行（日帰りでの大学視察旅行。本校OBの学生との懇談もあり、高校時代の勉強法・大学進学後の、学習に限らない・サークル・アルバイト等生活全般についても聞く事が出来、大変参考になります）

以上（ ）内は、あくまでも私の主観

ではありますが、多くの会員の皆様にご参加頂ければ有難いですし、参加頂ければ得るものも多いかと思えます。

「おもしろき こともなき世を おもしろく」明治維新立役者の一人である、高杉晋作氏の、この余りにも有名な句ではないですが、PTA会員が能動的に参画し、楽しむ事により、PTA組織が活性化し、それが又生徒にフィードバックされる好循環が生まれるのではないかと思います。

そしてその「楽しみ方」は「ただ楽しむ」のではなく、「責任を持って楽しむ」という姿勢でなくてはならないと思います。

1年間お世話になりますが、皆様方のご協力よろしくお願い申し上げます。

百花斉放

生徒会長 増田 皓太



今年度の生徒会では「百花斉放」というスローガンのもと活動を行っています。「百花斉放」の意味は、文化や芸術活動において多くの人々が活発に運動すること。毎年、勉強・部活・生徒会活動等で優秀な成績を収める縣陵生が、その才能を十分に発揮できる環境を作りたいと思い、このスローガンを掲げました。生徒会では、ただただ前年を踏襲した活動をするのではなく、昨年までの活動を見直し、改善に努めています。また、その成果として、今年の春のクラスマッチ限定ではありますが、日程を拡大して行うことができました。

また、6月末に第71回縣陵が開催されました。今年のテーマである「舞夏夢中」のもと生徒会を中心に全校生徒で準備をし、すばらしい文化祭に仕上げることができました。一般公開2日目には過去最大の来場者を迎え大盛況のうちに幕を閉じました。今回の経験を今後の生徒会活動に生かし、さらに素晴らしい生徒会を目指します。

生徒の学びの支援

PTA副会長 窪田 和英



PTA副会長の窪田と申します。本年もよろしくお願い致します。昨年1年間、PTA活動を通じ学校を訪問する機会が増え、現在の縣陵の状況、学校施設の問題等を実際に認識する事ができました。生徒一人一人の学びを経済的に支えていくのは保護者ですが、縣陵全体の学びの支援は、県陵同窓会、縣陵卒業生の有志を中心に発足した“県陵の学びを支援する会”など多くの“母校愛”に満ちた諸先輩からの協力がある事をご認識頂きたいと思えます。本年度、縣陵に探究科が新設され、2020年度から大学入試制度が変更されるなど、社会状況の変化に対応する学びが求められている感じが致しますが、高校時代に勉強や部活動を通じて学ばなければならない基本的な内容は大きく変化しないと思います。保護者の皆様、是非、PTA活動に積極的にご参加頂き、縣陵生へのご支援をよろしくお願い致します。

探究学習のトップランナーとして

学校長 杉村 修一



保護者の皆様におかれましては日頃より本校の教育活動に対しましてご理解とご協力をたまわり、誠にありがとうございます。5月のPTA総会において、これまでご尽力いただいた井口寿彦前会長の後任として竹内公人新会長を中心とする新体制が整い、本年度のPTA活動が始動しました。今年度は本校が中信地区の事務局校であるため、竹内新会長は中信地区高P連の会長と県高P連の副会長の大役を務めることになりました。

さて、創立95年目にあたる今年度、本校は英語科を発展的に改編した探究科（「自然探究科」「国際探究科」）が開科し、探究科1期生80名と普通科240名の320名が2、3年生に温かく見守られながら

入学しました。「質実剛健」「大道を闊歩せよ」「弱音を吐くな」の校是のもと、縣陵生たちはそれぞれの目標に向かって明るく澁刺とした高校生活を送っております。学習、クラブ活動、生徒会活動いずれにも手を抜くことなく精一杯取り組む姿は見ていて清々しさを感じます。

3月末に新たな高等学校学習指導要領が告示されました。その中で「主体的で、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」や「生徒が各教科・科目等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実」が必要とされています。

本校は、このような新たな学びへの対応のため、現在の3年生が1年生の時

から「信州学」を意欲的に行い、RESAS（地域経済分析システム）を利用しながらの探究学習の推進や授業改善に向けての一つのツールとしての「電子黒板」を全HRに設置をし、その利用方法の研究に取組むなど、県下で先進的な取組みを進めてまいりました。

今年度は3年後の大学入試制度改革にむけて、2年間の「Classi ポートフォリオ」の研究指定校となり、1年生の探究科はiPad、普通科はスマートフォンで「Classi ポートフォリオ」を活用しつつ、来るべく大学入試制度改革に備えております。（その為のICT環境面では同窓会に多大なるご支援をいただいております。）

教育改革が著しい今だからこそ、不易なるものに軸足を置きつつ、将来を見据え、新たなものを取り入れる柔軟性を兼ね備えた開かれた学校づくりに努めたいと思います。

『縣陵魂』で頑張ります。

PTA副会長 矢口 大輔



この度、新たにPTA副会長の重責を担うことになりました矢口と申します。進路が決まらず失意のままこの学舎を巣立ってから早30余年…まさか高校時代に（今もか）ダメダメだったこの私が、PTAの役員としてお世話になるとは！本当に全く想像していませんでした。しかし何の縁か、長男がこの春に縣陵を卒業し、またこの4月から長女が新たにお世話になることになり、家族まとめて母校への感謝の気持ちを含め、少しでもお役にたてればとお引き受けした次第です。さて4月になり役員の活動が始まりました。他の役員さんから比べたら少ないものの、会議・沢山飲み会も沢山高校のPTAだからそんなに…と思っていたのですが、この先不安です（涙）。でも一度引き受けたからには、弱音を吐くな！の『縣陵魂』で何とか頑張っていきたいと思います。縣陵の子供たちは、厳しい受験競争を勝ち抜いてきた優秀な、そして素直ないい子ばかりです。そんな子供達が、将来の大きな夢に向かって羽ばたけるよう、充実した高校生活を送れるよう、PTAとしてサポートできればと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

電子黒板がやってきた

教頭 栗山 嘉章



今年度から全学年のHR教室等に電子黒板が設置され、この電子黒板を使用した授業が行われている。それが見慣れた光景としてある。電子黒板の利点はいくつか挙げられるが、まずは、時間の短縮、具体的に言えば、黒板にチョークで書いていた時間が節約できる。しかも従来の「黒板」という機能も持っているので、写し出したデータの上や横に追加で書き込みもできる。もう一つ、特徴的なことを挙げると図や絵などの視覚的な効果である。教師の声による情報だけでなく、目で確認できるということは、学習の定着において意義があるだろう。しかもカラーはカラーである。その昔、OHPという機器があった。持ち運びが難しい。また、OHPがあってもスクリーンがなかった。全教室にスクリーンが入った頃にはOHPは使われなくなった。次にスクリーンが入ってもプロジェクターを持っていかなければいけなかった。小型になったとはいえ、明るさに問題があったり、パソコンも持っていかなければならない、更に接続に時間がかかったりするなど、なかなか敷居が高かった。今は、電子黒板と一緒に天井から弦下がついているプロジェクターのおかげで、パソコンだけ持っていけば、あるいはUSBメモリー1本だけ持っていけばいい。つまり、あとはいかに有効に、学びの目的に合わせて使用するかである。機器使用が目的ではなく、生徒の学びが目的である。OHPが教室の片隅に置かれ、かつてのスクリーンが下げられることなく置かれていてもOHPシートを入念に準備して教えてくれた先生の面影は忘れることなく残っている。

～どうせやるなら 楽しいPTA活動を！～



平成30年度PTA総会が去る5月19日（土）に開催されました。当日は数日前からの雨の予報が嘘のような五月晴れ、気持ちの良い青空が広がり、おおよぜの保護者の方にお集まりいただきました。

会は竹内副会長の開会の辞に始まり、井口会長、杉村校長が挨拶。井口会長は「スマホの発達などで意思の伝達が難しい時代。2020年の入試改革を控え、より魅力的な学び舎になるよう、家庭と学校が連携して影から生徒を支えていければ」と述べました。今年度新しく赴任された杉村校長からは「自由な雰囲気にあぐらをかかず、自ら考える縣陵生

であってほしい。中信大会や縣陵祭では弱音を吐かずに‘やる’。その為には家庭での安らぎが大切。どうせやるなら楽しくをモットーに」との言葉がありました。我が身を振り返り、果たして子供の意思や考えを尊重しているだろうか、家庭が子供の安らぎの場所になり得ているだろうか、と考えさせられました。

引き続き平成29年度の会計報告が承認されました。拍手により竹内公人会長



以下全役員が承認されました。竹内新会長は「会員同士の親睦が深められるようにPTA活動に大いに参加して欲しい」と呼びかけ、今年度の事業計画案として、要望の多いクーラー（エアコン）設置に関して1年間かけて温度を測定して県へ働きかけていくとの具体案が示されました。子供の学習環境改善の為に県の英断を期待したいところです。その他の事業計画案、予算案とともに承認されました。

最後に3年間に渡り本校PTA活動に貢献された井口前会長に感謝状と記念品が贈呈され。前会長からは退任の挨拶と感謝の言葉をいただきました。

総会終了後、各学年PTA、（1、2年生は学級PTAも）が行われ、夕刻よりPTA懇親会及び歓送迎会が割烹「仙岳」にて行われました。

1学年PTA

大学入試、探究学習、研修旅行について

1学年は初めてのPTAでしたが、大学入試に関する情報、研修旅行等盛りだくさんの内容を担当の先生方からお聞きました。

■学習について

2020年からの大学入試の変化について説明がありました。探究科はもちろんですが、大学入試の調査書にも探究学習で何を学んだかを記入するということもあり、普通科でも1～2年次に総合的な学習の時間に取り組みます。自ら設定した課題に対し最適解を追求し行動する学びは、AIの登場で変わる社会に必要な人材の育成に必要な学習法だそうです。また、大学の指定校推薦について、枠は多いが普通に学習している方が自分の希望する大学に合格しやすいとのことのお話もあり、1年の今から毎日の積み重ねが大事だと考えさせられました。

■研修旅行

11月には東京方面への国内研修旅行が予定されています。探究科は2泊3日、普通科は1泊2日。その後来年以降に海外研修旅行も予定されており、4月実施の保護者アンケート回答の上位は、現地での文化体験への期待と海外への治安不安という結果になりました。



2 学年 PTA

普通科 台湾修学旅行にむけての準備について

2 学年 PTA では、前半に学年全体に関わる「進路関係」と「生活指導」についての説明があり、後半は普通科と英語科に分かれ、普通科は 11 月に行われる「台湾修学旅行について」の説明会が実施されました。

■進路指導

2 学年でクラス替えをし、学部別、講座別の授業主体となった。部活動の後に塾通いなどを行っている生徒もいるが、普段の授業をいかにしっかり身につけるかどうかが鍵。「普段力」を大事にというお話をいただきました。



また、2021 年度の入試制度の変更や、夏休中に行われる志望大学のインターシップの申し込みについて説明を受けました。

■生活指導

実際にあった自校での「部室荒らし」の事象から、貴重品の自己管理についての注意喚起を受けました。自転車による交通事故の現状と、学校独自のルールの徹底。

台湾修学旅行説明会

「(A) 内を知る (B) 外について知る (C) 語学力、コミュニケーション能力、海外旅行の知識を得る」の 3 点を旅行の目的として、11 月 21 日 (水) より 11 月 24 日 (土) まで予定されています。

昨年に実施された旅行の写真などを題材に、旅行会社の方から旅行の詳細について説明されました。準備として、パスポート (有効期限 5 年) の取得を 9 月 14 日までにすること。なお、10 月 19 日 (金) に出発 1 ヶ月前の保護者説明会が予定されています。

3 学年 PTA

親子でワクワクする魔法の質問

「子どものやる気を引き出す!魔法の質問」と題して、三洋電子 (株) 取締役会長の青木姫路子先生による進路講演会が行われました。とても明るく元気ではつらつとした先生で、保護者もただ話を聞くだけではなく、ワークショップに参加し、終始笑いが絶えない講演会でした。

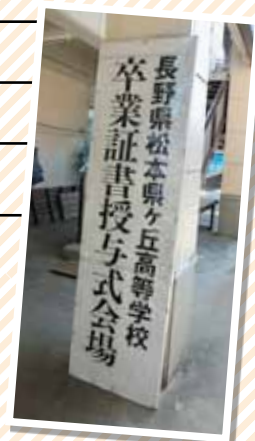
まずは、近くに座っている人とペアになり、ペアの相手との共通点を探したり、最近うまくいっていることをお互いに報告し合ったりしました。仲良くなったところで、4 人 1 組になって「〇〇さん、今日の服、似合ってるね!」と褒め合いました。褒められた人は照れずに「ありがとう!」「よく言われるの!」と笑顔で返します。褒める時は「笑顔で、相手の名前を呼びながら褒める」のが大切とのこと。大人になると褒められる場面が少なくなりますが、大人でもこんなに嬉しいのだから、子どもはもっと嬉しいに違いないと気づかされました。また、先生によると、人を褒めるには自分自身が日々の生活に満足していないと心から褒めることができないそうです。そのためには、他人と比較して自分に足りないものばかり考えて悲観するのではなく、今の生活の中のちょっとした幸せを数え、私たち自身が心の余裕を持つこと。最後に、「なんで?」と聞くのではなく、「どのように?」と聞くようにすると、相手も自分で



考えて意見を言うことができると教えていただきました。これこそが『魔法の質問』です。つい子ども達に「なんで勉強しないの?」「なんでスマホばかりやってるの?」と責めてしまいがちですが、例えば「どうしたらやる気が出ると思う?」「どうしたらスマホから離れられるかな?」など、子どもが自分自身で解決策を考えられるような声掛けをするといいそうです。皆さん、ぜひ試してみてください!



4月	5日 入学式
5月	10日 第1回 理事会 評議員会
	19日 PTA総会 進路講演会
	25日 中信地区高等学校PTA連合会総会
6月	31日 芸術鑑賞
	7日 長野県高等学校PTA連合会総会 (長野市)
7月	23・24日 縣陵祭 (一般公開)
	13・14日 北信越高等学校PTA連合会研究大会 (新潟市)
	27日 PTA会報発行 134号
8月	地区交流会～11月上旬
9月	20・21日 全国高等学校PTA連合会研究大会 (佐賀県)
	7日 合唱コンクール
	8日 3学年PTA
10月	11日 中信高等学校PTA指導者研修会
	4日 人権学習(法政大学特任教授 尾木直樹先生)
	12日 強歩大会
11月	中旬『教育条件整備』に関する署名運動
2月	10日 PTA研修旅行(名古屋大学)
	14日 第2回 理事会 評議員会
3月	下旬 PTA会報 135号
	2日 卒業式



10月4日 人権学習

〈尾木直樹先生(尾木ママ)のプロフィール〉

1947年・滋賀県生まれ。教育評論家。中学、高校の国語教師を22年間務めた後、大学教員に転身して22年教壇に立つ。法政大学教授を経て現在は特任教授。臨床教育研究所「虹」所長として教育・子育てに関する調査・研究、評論活動が続ける。「尾木ママ」の愛称で親しまれ、Eテレ「ウワサの保護者会」やフジテレビ系「ホンマでっか!?TV」など多数のテレビ番組で活躍中。

縣陵生の頑張りが間近に！

総務委員長 小西 里江子



総務委員会の仕事は、10月12日（金）に行われる強歩大会のサポートです。
ゴール目指して進んで行く縣陵生。完走後の逞しい成長を間近に感じられる機会です。
男子32.9km・女子28kmのコースは距離が長いだけでなく、アップダウンに富んでいます。
多くのポイントの設置が必要です。
強歩大会の成功には生徒達の安全確保のため、先生方、PTA役員、当日お手伝いいただくボランティアの方々のご協力が必要です。
一緒に声援を送りましょう。

愛読される「縣陵」を目指して

広報委員長 戸叶 俊子



息子の入学式の日初めて手にしたPTA会報「縣陵」。隅々にまで目を通し、「これから始まる縣陵生活は、何かとっても楽しそう」とワクワク、そしてちょっぴり羨ましく思ったのを昨日のこのように覚えています。
「縣陵」には、縣陵祭、合唱コンクール、強歩大会などの学校行事や部活動での頑張り・活躍、進路の事など、私達保護者の知りたい事やのぞき見たい事、ためになる事が満載です。先生方の生徒への思いやりに触れ、子ども達の輝くようなとびきりの笑顔にも出会えます。
今年度発行予定の「縣陵」も担当の池上先生、広報委員の皆さんと心をこめてお届けしたいと思います。願わくば、大人の階段を登り始め、学校生活の多くを語らなくなった子どもに代わり、親と子、そして学校を繋ぐような「縣陵」でありますように。
1年間どうぞよろしくお願いいたします。

親睦と教養を深めてみませんか？

研修交流委員長 井口 千恵子



PTAの目的の一つに『会員相互の親睦と教養を深めること』があります。研修交流委員会で企画している地区交流会や研修旅行は、まさにこの目的のお役に立てるのではないのでしょうか。
高校生ともなると家で色々話してくれなくなりますし、他の保護者の方とお会いして話す機会も少なくなってしまう。地区交流会や研修旅行で交流を深めていただければ、子どもの考えていることや学校での様子を垣間見る一助となるのでは、と考えます。
特に11月10日に予定されている名古屋大学への研修旅行は、保護者だけではなく在校生も一緒に大学見学に参加できます。本校卒業生との交流も計画されていますので、大学生の“ナマ”の声を聞くこともできます。きっと有意義で参考になる時間を過ごせることでしょう。
この機会に地区交流会や研修旅行に参加して、親睦と教養を深めてみませんか。

同窓会より奨学金のお知らせ

大学進学決定者を対象とした、無利子の育英（貸与）制度があります。年度毎の定員は3名で、貸与額は年間50万円（4年間で200万円）、返済期間は貸与期間の2倍以内（例：4年生大学は8年間）となっています。募集は、来年2月以降で採用決定は3月下旬になります。詳しくは、同窓会事務局（32-0666）までお問い合わせください。

進路実現に向けて



3学年主任 桑澤 悟

時がたつのは早いもので、3年生も3ヶ月が過ぎました。思い返せばこの学年は入学直後のスタート合宿に始まり、2年生では普通科は初の台湾修学旅行、英語科はオーストラリアへの語学研修と数々の大きな行事をこなしてきました。これら経験が生徒たちの今後の人生に何かしら良い形となって活かされるものと信じています。

今年も多くの部活動で3年生の活躍が目立ち、また生徒会役員たちは縣陵祭成功へと導きました。野球部などこれから頑張りどころの部活動もありますが、多くの生徒において部活動や生徒会活動が一区切りつきました。こうした課外活動で友と築いた良き思い出を心の糧とし、これまで培った体力

や気力、集中力を遺憾なく学習活動に向けて欲しいです。

3年生にとって今一番大切なことは気持ちの切り替えです。課外活動が終わり、気持ちの空白感はあると思いますが、高校生活を満喫した分、早めに「学習モード」さらには「受験モード」に切り替えることが肝要です。言うまでもありませんが、この夏をどう過ごすかが大切で、今後を大きく左右します。特に夏休みは補習授業の活用、各自が定めた課題実行や弱点克服と、能動的な学習をすべきです。今年の夏も猛暑が予想されますが、3年生のH R教室や陵友館は冷房が完備されており、学習に集中できる環境が整っています。

学校では9月以降、各教科とも受験に向けた実力養成を念頭に置いた授業が展開されます。さらに12月から始まる特編授業では、センター試験、国公立二次・私大入試に対応できる実力を養成する予定です。生徒の皆さんそれぞれが自分の進路目標を達成できるよう、私ども3学年担任は保護者の皆様と連携しながら、精一杯尽力したいと考えております。

卒業に向けて



3学年会長 二宮 千晴

月日が経つのは早いもので高校生活もいよいよ最後の年になりました。入学したばかりの頃、CDを聞きながら必死で応援練習をしていたことが懐かしく思えます。

2年生では縣陵初の台湾修学旅行。交流した現地の高校生の語学力に刺激を受けるとともに、自身

の拙い英語でも言葉が通じる喜びを感じたようです。異文化に触れ、台湾のよさを実感しつつ、日本の魅力も再認識できたことは大きな収穫でした。先生方の御尽力によりよい経験をさせていただきました。

3年となり否が応でも進路の選択が迫ってきます。不安を抱える日々になりますが、経験豊富な先生方にご指導いただきながら、縣陵の三大精神の一つ「弱音を吐くな」を胸に乗り越えてほしいと思います。親として子どもとしっかり向き合い、親子で過ごせる時間を大切にしていきたいと思っています。無事に卒業の日を迎えられることを共に願いましょう。1年間よろしくお願いします。

「知っていること」から「やりたいこと」へ



2学年主任 細田 明彦

進級おめでとうございます。高校に入学して一年経ちました、お子さんは新しい世界・新しい友人と出会えたでしょうか。そして、新しいクラス、講座毎の授業にそろそろ慣れたころでしょうか。

以前、ある講演で「やりたいことは知っていることの中からしか見つからない」と聞いた覚えがあります。言われてみれば当然のことなのですが、こういうことはすっかり忘れていたのです。

やりたいことが見つからず、進路選択で迷いに迷っている生徒もいますが、今の自分の「知っていること」の狭さをまず認識してほしいと思います。そうすれば、その狭い認識の中であれこれと考えていることが、あまり意味のないことなのだとすることが分かるのではないのでしょうか。上の学校に行き、新しい世界・新

しい友人と出会えば、「知っていること」はどんどん広がっていくわけですし、その中で自分の「やりたいこと」を見つけることができれば、文系・理系という分類が意味を小さくしている今の時代、そこから新たな「やりたいこと」に向かってスタートすることは十分に可能です。だから、もし今迷っているとすれば、「知っていること」を知る、「知らないこと」を知る、ということが大切です。

この学年は、最後のセンター試験受験の代となります。昨年のセンター試験では、英語や国語の出題傾向の変化、これまでにないような出題がみられるなど、2020年度の新入試を意識したような出題が見られました。私立大学や国公立大学の出題においても同様な傾向が出てくると思われます。どんな問題が出てきてもよいように、柔軟に問題に取り組めるようにしたいものです。

また、生徒会や部活動でも学校の中心となってゆく学年です。台湾修学旅行もあります。ご家庭とともに、お子さんが思いっきりその持てる力を発揮できるよう見守ってゆきたいと思います。

悔いの残らないように



2学年会長 降籬 一郎

高校生活も早いもので1年が過ぎました。この一年で高校生としての自覚や自分の生活リズムも大分整ってきたのでは。また進路に対する考えも見え始めているでしょう。理系、文系どちらで進むかなど、人生で初めてと言える分岐点に差し掛かってきました。しかし、高校というところは『学問』をするだけの場所で良いのでしょうか。

自分は高校時代に『学問』だけに注力して理系の大学に進学しました。社会人となり、大した資格もなく、自分でなければという特異技術もない、など目的意識を持たなかったこと

を今になって非常に後悔しています。

学問をするのは当然のこと。それ以外に『未来に目を向けてみる』必要もあると考えています。『自分らしさのために何かを探す』、『興味のあることを見付けて未来にチャレンジする』。どんなことでも良い。少しでも良いから『やり残し』を減らして欲しいのです。

気が緩みがちな2学年(自分がそうただただかも…)、学問以外の何かを掴んで一回り大きくなれるように願うばかりです。

卒業して次のステップに進んだ時、社会に出た時に『後悔しない』ように。

子どもたちが高校生活を有意義に楽しく頑張って過ごせるように先生方と協力し合い、PTAとして、親として、できる限りのサポートをしていきたいと思っています。

今年一年間、よろしくお願いします。

さあ、踏みだそう！



1学年主任 青木 隆明

1年生も入学式から3ヶ月以上が過ぎた。年度当初様々な行事やオリエンテーションが次々と実施された。「怖い、怖い」と言っていた応援練習をなんとか乗り越えた。クラブに入部して積極的に活動し、生徒会活動では初めての「縣陵祭」、準備・一般公開・片付け等すべて経験した。縣陵での高校生活の様子がわかってきた頃だと思う。

この学年は新しいことに取り組んでいく学年であるといえる。高大接続改革のもと、高校教育改革・大学教育改革・大学入試改革が進んでいく。大学入試については、センター試験が大学入試共通テストと名称を変え、国語と数学では一部記述式問題も導入される。また、英語では外部試験も導入される。試験問題は「知識・技能」に加えて「思考力・判断力・表現力」

を評価できるような出題が求められるようになり、高校での多様な学習活動を評価できる「調査書」が検討されている。

また、高校教育改革の一つとして「探究学習」に学年全体で取り組み始めた。木曜7時間目の総合学習の時間、さらに探究科は月曜7時間目の探究基礎の授業で、探究学習を実施している。生徒たちは、課題に対して自分で考え、意見を出し合って討論し、時には体を動かして検証し、意見をまとめ発表する、このような活動に大変熱心に取り組んでいる。

今までの英語科海外研修と普通科台湾修学旅行から、この学年は、探究科は1年次3月に東南アジア(マレーシア・シンガポール)もしくはオーストラリア(ブリスベン)の海外研修旅行、普通科は2年次12月に台湾研修旅行の実施に向けて準備をしている。国内では経験できないことを探究活動を通して行う方向で内容の検討を進めているところである。

自ら立てた問いに対し、チームとして協働しながら解を見つけ、新しい価値を主体的に創造していくことができる生徒に成長することを目標にして、生徒も先生も新しいことに挑戦していきたいと考えている。

真っ白なキャンバス



1学年会長 柳澤 美彩

平成30年4月、探究科がスタートし、第1期生が誕生しました。「探究科ってすごいネーミング」「探究活動って何をするの?」いろいろな反響も聞こえてきます。保護者世代にとって、「探究学習」は馴染みの薄い未知の世界なのです。

「探究の授業って普通の授業と何が違うの?」と娘に尋ねてみました。すると「答えのない授業って感じかな。」とのこと。

課題をみつけることがはじめての一步、あらゆる可能性を探り、辿り着かなくてはならない答えはないということでしょうか。

真っ白なキャンバスに向かうのに似ているのかな。大きなキャンバスに仲間たちと描く絵…そんなイメージが膨らみました。そしてふと、子育てもまた答えのない、正解がひとつではないものだと思い返しました。

3年間の探究学習で培う好奇心と開拓精神と創造力を武器に、大きく羽ばたこうとしている子ども達。彼らが描き出す絵を楽しみながら、時に励まし、見守ることで、いつの間にか最後の絵仕上げの時期を迎えた私達の子育ても、より豊かなものになるよう願っています。

▶ 探究科、始動

この4月より新学科・探究科がスタートしました。1年生2クラス80名が、従来の教科学習に加えて、自らの興味・関心に基づいたテーマを探し、究めていく「探究」学習を行います。これからの社会で求められる、主体的に課題を発見し、解決する能力を養うことが目的です。1年次の学習をもとに、2年次からは自然探究科・国際探究科に分かれます。ここではこれまでの探究科の様子と1年次の今後の予定をお伝えします。

探究学習&進路ガイダンス

4月27日（金）、これからの探究学習および高校生活の指針となることを願って、探究科のみならず1年生全体でガイダンスを行いました。午前中は探究活動の必要性を学んだあとに、探究学習として「推定の仕方」を学びました。午後は医療、マスコミ、政治、芸術、国際協力など様々な分野で活躍するOB・OGの皆さんに来校していただき、高校での学習についてはもちろん、それぞれの職業の立場から高校時代に身につけて欲しい力などをお話しいただきました。講師は一昨年度発足した「縣陵の学びを支援する会」より派遣していただきました。



探究学習のようす

日本全国の電柱の数を、知っている知識を総動員して推定しています。



進路ガイダンス

NY在住のピアニスト本田瞳美さんには、スカイプを利用してお話しいただきました

探究学習

毎週月曜日の7限と木曜日の7限に探究学習を行っています（木曜日は普通科と同じ内容）。現在は探究の学習に必要な力を学ぶ段階で、テーマ設定の方法、仮説の立て方、資料の使い方、客観的かつ説得的な意見の提示方法などを学んでいます。これをもとに秋以降、各自の課題を探究していきます。

3月の海外研修では探究学習の成果の一部を英語で発表し、ディスカッションしていきます。



グループによるディスカッションを取り入れ、iPadを使って他のグループと意見を共有します。

国内 研修

11月20日～22日の2泊3日で国内研修を実施します。初日は、東京グローバルゲートウェイでの英語力向上のためのプログラム。2日目は筑波大学及び筑波研究学園都市でのアカデミックな学習。3日目は興味・関心に基づいて企業を訪問して、探究学習を行います。いずれも海外研修、さらには進路を見据えた内容です。

この研修を通じてグループ行動での探究学習の方法を学び、英語でのコミュニケーション力を高めるとともに、知的刺激を受けて、各自の探究学習が深まることを期待しています。

東京グローバルゲートウェイ(TGG)とは

東京都教育委員会が今年9月に開設する、新しいタイプの体験型英語学習施設。8人グループに、入場時から施設を出るまでイングリッシュ・スピーカーがオール・イングリッシュで付き添います。そのやりとりやプログラムを通じて、「分かった」「通じた」という英語コミュニケーションの成功体験が豊富に得られるようになっています。

※詳しくは YouTube などをご覧ください。



海外 研修

1年次の3月中旬に希望者向けの海外研修を実施します。オーストラリア（ブリスベン）と東南アジア（シンガポール・マレーシア）の2コースを設けています。どちらも興味・関心にそって分かれたグループ別のフィールドワークを行い、それまでの探究学習の成果を発揮します。また、英語でのプレゼンテーションや質疑応答、ディスカッションといった英語を活用する活動を行います。それに向けた1年次の学習はハードですが、その分英語力が著しく向上するものと期待しています。

両コースとも多様な文化、豊かな自然を体験でき、知的にも多くの刺激を得られ、2年次の学習に対するモチベーションも高まることと思います。



探究科1年A・B組（縣陵祭にて）

【特集2】守ろう伝統！硬派縣陵応援団！

守ろう伝統！ 硬派 縣陵 応援団！

こんなにもある応援団の出番

4月	始業式・着任式・入学式・応援練習
5・6月	県大会、北信越大会、インター杯壮行会
6月	縣陵祭
9月	合唱コンクール・終業式
9・10月	県大会、北信越大会壮行会
3月	卒業式・終業式・離任式

伝統の上に築く新たな応援団

応援団顧問 郷原 俊一

応援委員会の顧問として3年程関わっております。伝統を継承しつつも新しい時代の流れの中で、これまでになかった新たな応援団が出来上がりつつあります。前例のないことを行なっていくことは伝統校であるだけに相当苦勞することではありますが、生徒たちは思ったよりしなやかに対応しているのではないかと考えています。これから更に未知の領域を進んでいくと思いますが、どんなに形を変えても精神は縣陵生であります。どうか温かく見守って頂きますようお願い申し上げます。

強くしなやかに伝統の継承を

第70代応援団 団長 佐々木 柚太

私たちは強制的かつ男子のみの最後の応援団です。そんな代の団長として春の応援練習が終わった今、感慨深いものがあります。

2年前、応援団員となり数々の応援練習をしてきました。当然厳しく、日に日に仲間が辞めて行くのを見るのは辛かったです。団長になってからも不安もありましたが、最後まで全うできたのは応援団、顧問団をはじめとする人々のお陰と思い感謝しております。

応援団には伝統を引き継ぎ伝えていく役目があります。伝えるべき伝統には形がないのでその継承は困難です。伝統とは縣陵生としての誇り、自信、思い出、全てです。春の応援練習後一年生たちの涙を見てその部分を伝えることができたのではないかと思います。大変嬉しく思いました。

伝統は移り変わります。しかしそれは継承の上に成り立つものです。応援団として譲れない核となる部分を保ち、強くしなやかに受け継いでいってほしいです。

史上初の女子応援団長!!

縣陵応援団の今

第71代応援団 団長 杉本 芽生

私の思う縣陵応援団は「縣陵生の代表」「憧れ」です。私はこの2つに憧れて応援団に入団しました。厳しく、時に理不尽な練習を乗り越えて、より一層自らが縣陵を代表して前に立つ事を実感しています。

団長という役割を任せられ、3年生から引き継いだ時から重く大きな物を背負ったなぁと内心とても焦っているのが現状です。でも、今までの先輩方が築きあげてきた「伝統」をただ引き継ぐだけでなく、進化させていきたいと考えています。女子団員が加わった新生応援団の形を存分に生かし精一杯やり遂げます。全員が縣陵の代表にふさわしくなるような縣陵応援団を目指します。



じゃんけんで決まった応援団でも伝統継承の要になる

第70代応援団 副団長 野村 友暉

私の高校生活は応援団になるところから始まりました。じゃんけんで決まったものの、なったからには続けることを決意しました。最初の応援練習は特に厳しく、2週間ずっと辛い日々でしたが、自分たちが縣陵の伝統を引き継いでいくことを自覚する良い機会になりました。

後輩が入り新たな応援団となり、さらに先輩方の引退。責任は重くなる一方で。そんな活動は思い出に残る出来事で一杯です。春の応援練習は特に印象的で、全力で教えた新一年生が厳しい練習に耐え抜き、感動して泣いている姿を見て私も応援団を続けていてよかったと感じました。

応援団活動を通じて伝統が受け継がれていることを実感します。時代の変化に応じて、応援団がなくなったり、練習が縮小されていますが、縣陵の応援団とその伝統が無くならないことを祈っています。



活躍する縣陵生

北信越大会出場者

【卓球部】

- 男子学校対抗…3E 草深翔太郎くん、3B 井ノ口雅幸くん、3G 佐野真澄くん、3F 中村泰地くん、3F 尾和優多くん、3E 今井悠人くん、2C 丸山悠悟くん
- 男子ダブルス…3B 井ノ口雅幸くん、3G 佐野真澄くん
- 男子シングルス…3B 井ノ口雅幸くん
- 女子ダブルス…2E 大池桜月紀さん、2E 澁谷萌恵さん
- 女子シングルス…3A 山田奈々さん

【陸上部】

- 走高跳…1C 片瀬賢斗くん、2C 高田幸之介くん、3A 二村峻平くん、3F 塩原美里さん
- やり投げ…3C 中野龍星くん ●円盤投…3E 三澤弘季くん
- 【弓道部】 3G 伊藤百花さん 【空手道部】 2E 田中柚衣さん
- 【ソフトテニス部】
- 女子団体…3F 内藤京子さん、3F 伊與部莉乃さん、3C 山本理紗さん、3H 加藤秋穂さん、2B 加藤杏さん、2C 平栗華乃さん、2E 小林花菜さん、1A 伊與部希奈さん
- 個人戦ダブルス…3F 内藤京子さん、3H 加藤秋穂さん

空手部

一年生の時は県大会止まりでしたが、今回北信越大会に出場できました。結果は一回戦敗退でしたが、県外の強豪校との対戦は試合のみならず、練習に対する姿勢、挨拶、礼儀など様々な面で勉強になりました。強さの背後にはこうした総合的な姿勢があるのだと痛感しました。今後は技術面のみならず精神面を鍛えてインターハイを目標に努力したいと思います。(2E 田中柚衣)



山岳部

8月に三重県鈴鹿山脈で行われるインターハイへ出場します。暑さに負けずに4人で精一杯頑張ります。(3D 齊藤みづき)



新チームとなって初の大会だった。優秀校には選ばれなかったが、ここで得た経験を今後の山行に生かしたい。(2G 今井惇人)



弓道部

私は北信越大会に参加できて本当に幸せでした。結果は悔しかったですが、それ以上にやり切れた満足感が大きく、全てが報われた瞬間でした。今まで弓道をやってきて本当に良かったと思いました。(3G 伊藤百花)



卓球部

私たち卓球部は団体戦北信越大会を目標に日々の練習に励んできました。高校総体県予選では練習の成果が実り長野県三位で北信越大会へ出場することができました。北信越大会では高岡龍谷高校に0対3で負けてしまいましたが試合内容は良かったと思います。私たちがこれまで卓球をやってきたのは保護者の皆様、先生方、その他応援して下さった皆さんのおかげです。本当にありがとうございました。(卓球部部長 3E 草深翔太郎)



陸上競技部

地区予選では先生・家族・仲間などの多くの方々に支えられてここまですることができました。インターハイでは、全国入賞という目標を共に達成できるよう、また出場できないライバルや仲間の分まで全力で戦ってきます。応援よろしくお願いします。(3C 中野龍星)



ソフトテニス部

私たち女子軟式テニス部は、明るく楽しくテニスをやるということを大切にこれまで活動してきました。その中で試合に勝ちたいという気持ちが強くなり、今まで以上に真剣に練習に取り組み、目標であった北信越大会出場を決めることができました。北信越大会では、他県のレベルの高さに圧倒されながらも私たちらしく試合ができました。そして優勝校と試合ができたという良い経験をられました。これからも高みを目指して頑張っていきたいです。(3F 内藤京子)



第42会全国総文祭・インター杯・出場予定団体及び選手

【歌留多部】 3B 小堀実桜さん

【演劇部】 3C 濱沙南さん

【書道部】 3B 田島幸奈さん

【地球の会】 2C 宮下菜々海さん、2E 西村若葉さん、2G 塩澤菜々子さん

【ダンス部】 【音楽部】

インターハイ出場者

【陸上部】 3C 中野龍星くん、2C 高田幸之介くん
(8月2日から8月6日、三重県伊勢市伊勢競技場)

【山岳部女子】 3D 齊藤みづきさん、2C 櫻井ゆみさん、2G 古田優希さん、1E 大木奈緒さん
(8月3日から7日、三重県菰野町)

ようこそ縣陵へ！

ようこそ



Imagine the future

君たちは未来のフロントランナー！

この3年間、各教科の学習・部活動・生徒会活動などすべての領域を「探究」していこう!! (担任 中谷 幸裕)



前向きに、発想豊かに、着実に

部活はもちろん、勉強も探究も行事もすべてをみんなで前向きに楽しみましょう。安易に成果を求めず、必要なことを一つずつ着実に積み上げて、3年次で大輪の花を咲かせて欲しい、そう願っています。(担任 金澤 大典)



Challenge!

失敗してもいい。迷ってもいい。

新しいことに挑戦し続けよう。

昨日の自分より、一歩先へ!!

(担任 小林 高彰)



今を生きる

自分で考え、判断し、行動する。

そして多くの出会いを掴みとろう!

(担任 羽賀 規真)



縣陵へ！



Enjoy

3年間は楽ではないけれど
楽しむことはできる！
何でも楽しんでやってみよう!!
(担任 澤柳 まり子)

健康で、明るく、素直！

たくましく育ってほしい。
(担任 青木 隆明)



想像&創造力

誰かのことを想えるように。何かやりたい
と想えるように。そして、想うだけではなく、
創(造)れるように。
(担任 降旗 史朗)



ヒューリスティックに！

元気一杯、個性豊かな皆さんが、
日々勝手に望ましい人間関係や学
習環境を模索しています。
(担任 今井 隆)



～縣陵祭スナップ～



縣陵祭 表彰

ポスターデザイン 長瀬桜乃さん (2D)
 パンフレットデザイン 大和田真優さん (2D)
 文化部賞 家庭科イキキ部
 生徒会企画賞 1年A組、2年E組、3年E組
 校内装飾 最優秀クラス 1年A組
 ダンス 最優秀クラス 2年H組、3年E組
 ビデオ 最優秀クラス 3年E組
 ステージ発表 最優秀クラス 2年E組



編集 雑記

- 原稿、校正、編集などといった編集者のにもなったような気分。広報委員の努力の結晶を是非隅々までお読みください。(3F 戸叶委員長)
- 広報委員として応援団の生徒に取材したり、委員の皆さんと楽しく委員会活動ができて役得だと感謝しています。縣陵のことがますます好きになりました。後半も頑張ります! (3E 山本副委員長)
- 皆さんがこんなにグイグイ関わっていらっしゃるのを委員をさせて頂いて知りました。編集会議も楽しかったです。(3F 米澤)
- 自分の都合でまだ一度も委員会に参加出来ていませんが、私にしか思いつかないアイデアを出して役に立てたらと思います。(3G 有賀)
- 池上先生の手際の良さ、広報委員の皆様のご協力の上「縣陵」が作られている事を知ることができました。クジ引きで決まった役員でしたが、微力ながらお手伝いできた事に感謝しています。これからは端から端まで読まさせていただきます。(2A 赤羽)

- 子どもが小学生だった時以来のPTA役員でしたが、広報誌を作成することで、学校や子どもたちの様子がわかり、とてもよかったです。(2D 池田)
- 広報委員として参加させていただきいろいろ勉強になりました。(2D 原田)
- 134号の編集会議は、夜でも30度超えの厳しい夏日。こんな暑さの中で、生徒たちも授業を受けているんですね。子どもたちのためにエアコン設置のアンケートにぜひ回答を。(2F 小林)
- くじ運が良く(?) 広報委員になり、大変かなあという思いでいました。しかし、同じ委員の仕事をする中で委員の保護者の方と話をして親近感もわき、楽しく感じました。あと半年楽しんで活動していけたらと思います。(2F 近藤)
- 広報委員としてPTA会報作りの仕事に携わり貴重な経験ができました。ありがとうございました。(2H 小林)
- 校正しながら一字一句を読み込んでみると、PTAの皆さんの子ども達への熱い思いが迫ってきました。一人の親としてありがたいです。(1A 池田)

- 入学式に手にした「縣陵」。夢中で読みました。くじ引きでなった広報委員ですが、会報作りにも携わることができて、嬉しいですね。どのページにも縣陵がみついています。皆さん是非読んでください。(1E 松澤)
- 委員になったことで高校だともっとお会いできない保護者の方々とお話しで、深く学校に関わることができて良かったです。(1H 青柳)
- 県ヶ丘高校に娘は入学したはずなのに「縣陵」って何?! そしてまさかPTA会報「縣陵」の編集に参加して記事を書くことになるとは未だに私の中の謎は…。でも学校行事のことはこれを読めばわかります。校正作業での皆様の発言が、国語の授業のディスカッションみたいで楽しかったです。(3B 竹内会長)
- PTA会報「縣陵」が8年間で4回目の県代表に選出され全国PTA連合研究大会で展示されるそうですが、目撃した人はおらず、なんの表彰もないので、不思議な選抜です。「活躍する縣陵生」いい写真をたくさん提供してもらったのに大変小さくて申し訳ありません。次回は大きく載せます。(広報担当 池上)

松本県ヶ丘高等学校PTA会報 縣陵 134号

発行日●2018年7月27日 発行●松本県ヶ丘高校PTA 編集●広報委員会 印刷●川越印刷株式会社
 写真提供●有限会社金森写真館 <http://www.nagano-c.ed.jp/agata>

